



自己紹介

ぐんま少年少女センターは、年間さまざまなイベントを通して、子どもの自主性を尊重しながら地域の仲間作りを支援する団体です。

イベントの対象者はおもに小中学生で、未就学児でも親子で参加できます。高校生以上の年齢になると指導員やスタッフという立場になり、活動のときは子ども達と一緒に遊んだり、裏方の作業をしたりします。青年や社会人は学生指導員の育成や運営の裏方として参加しています。

子どもの自主性を尊重します

ぐんま少年少女センターの特色として、子どもの自主性を尊重するという点に重点を置いています。遊ぶときも、指導員が進めるのではなく、子ども達が何をやりたいのかを聞いてみんなの意見をまとめてから始めるようにしています。子ども達から意見が出ないときは指導員から提案して、みんなが納得してから進めます。

また、ぐんまセンターには立場の上下がありません。もちろん組織を運営していく上での立場はあるので、大人・青年・子どもというく



イベントではたくさん歌をうたいます

りはありますが、じゃあ大人は偉いのかと言うとそうではありません。子どもの意見も大人の意見も同じ意見として考えます。その中で参加者がそれぞれの意見をたいせつにすることを学びます。

おもな活動

●あおぞら学校

毎年桐生市で実施している行事です。2017年度は春と秋の2回行いました。春は登山。秋は1泊2日で、昼間は市民広場で思いっきり遊び、夜はお寺に泊まりました。子ども達は市内外のいろいろな地域から集まり、その中で班を作り一緒に行動することで仲良くなります。

地域の広場や公民館で行われ、同じ学校の子がいることもあり、はじめて参加する子どもにとっては馴染みやすいイベントです。

●ぐんま少年少女キャンプ

毎年8月のお盆の時期に3泊4日で実施しているキャンプです。対象年齢は小学3年生からですが、それより小さい子どもも親子で参加できます。

一般的なサマーキャンプと大きく違うところは、子ども達の自主性に任せているところです。例えば、キャンプ中のイベントは子ども達が話し合っ決めて決めます。一人一人のやりたいことを聞き、みんなで話し合っ納得した上で決めます。食事作りも同じで、子ども達で役割を決めてそれぞれの仕事をします。連携がうまくいかないと当然時間も遅れます。それも大事なことで、じゃあどうしようと話し合います。こうして困難を乗り越えることで、協力することや仲間を大事にすることを学びます。

リーダーも子ども達で決めます。選ばれたり

ーダーは4日間責任を持って仕事をするにより、楽しいだけでなく辛いことも経験して成長していきます。もちろん、子ども達だけでは大変なことは指導員がサポートして、自分達の4日間を作り上げていきます。

指導員の役割

指導員の仕事としては大きく分けて2つあります。1つは子ども達の安全を確保すること。子ども達の行動は時として大きな怪我につながるような事があります。常に子どもの行動に注意して安全に過ごせるようにします。もう1つは心のケアです。参加する子ども達はみんながみんな活発的な子どもというわけではありません。自分のやりたいことを思い通りに伝えられない子どももいます。そういった子どもに寄り添って一人ぼっちにならないよう近くにいてあげることも大事な仕事です。

指導員は、こういった活動をしていくために、実践だけではなく学習もします。指導員学校を実施したり会議で反省会をしていく中で、指導員として成長していきます。



食事作りは薪に火を付けることから

異年齢集団の良さ

大人も子どもも同じ立場で作りに上げていくことで、普段の生活にはなかなかない人間関係を持てるのがぐんまセンターの良さだと思います。もちろん人間同士なので共感するだけでなくぶつかることもあります、それも大事なこ

とであり、話し合っ理解することによってより良い仲間作りが出来ると思っています。子ども達には、気軽に友達を作る感覚で参加して自分のペースで楽しんでもらえればと思います。

※ブログでも活動のようすを紹介しています
ぜひごらんになってください！

: <https://gssc.exblog.jp/>

ブログから



子育てシンポジウム

2月18日(日)に、子育てシンポジウムを行いました。参加したのは、1都2府6県から61人！前橋市の、昌賢学園前橋ホール(前橋市民文化会館)で行いました。

司会進行はぐんま青少年少女センターの高校生と大学生！初々しいながらもしっかりと司会進行を行ってくれました。

シンポジウムは、パネリスト4人に助言者・ファシリテーターを加えた6人が前に座り、各パネリストの取り組みについて紹介しつつ、会場からの質問に逐次答えていく形式で進められました。

その中で、パネリストからの報告に会場からたくさんの質問や賛同が出ていたと同時に、「ではこの質問には、会場にいる若い子の意見も聞いてみましょう」といった急な振りもあり、とても真剣な、実のある話の中でも、ところどころに笑いや温かさのある会となりました。ちなみに、急に話を振られた若い子は、急に振られたにもかかわらずしっかりと受け答えをしていて、会場から感心の声が上がっていました。

最後も司会の2人が会場を温めながら締めくれたので、非常に良い雰囲気です。会を終了することができました。